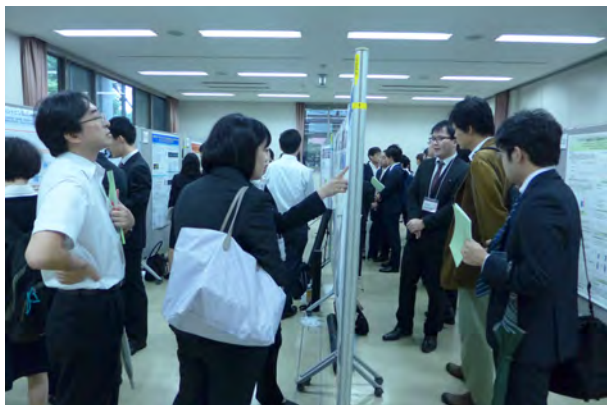


公益社団法人 日本農芸化学会 2017年度 関東支部大会

(報告者：小林達彦)

日本農芸化学会関東支部2017年度大会は、9月2日(土)に筑波大学で開催されました。筑波大学は秋葉原からつくばエクスプレスで約1時間、つくば駅からバスで20分弱であるにも関わらず、また、大会開始時は小雨模様であったにも関わらず、関東全域から多数のご参加を頂きました。

まず、10時半より支部長の浅見忠男先生から開会の辞を頂き、10時35分から12時25分までポスター発表が総合研究棟A棟で行われました。ポスターの発表件数は64件(うち優秀発表賞のエントリーは32件)で、奇数・偶数の演題に分かれ、各55分のディスカッションタイムの中、活発な討論が行われました。



昼食を挟んで、13時40分から前半の口頭発表8件(うち優秀発表賞のエントリーは6件)が第2エリア2H棟201号室で行われました。進行が15分程遅れたものの、休憩後、ほぼ予定通り15時38分から後半の口頭発表7件(うち優秀発表賞のエントリーは5件)が行われました。各々、12分(質疑応答2分含)と時間が短かったものの大変興味深い内容の発表そして活発な質疑討論が行われました。最後に、小林(副支部長)から閉会の挨拶をさせて頂き、支部大会は無事予定通り終了しました。

大会終了後、17時30分から筑波大学内の第2エリア大食堂で懇親会が行われました。一般50名、学生54名、合わせて104名が参加した懇親会では和やかな雰囲気の中、活発な議論と情報交換が行われました。会の半ばに、学生会員が発表者である講演を選考対象とした優秀発表賞

JSBBA KANTO

の授与式が行われました。農芸化学の各分野から選出された選考委員によってポスター発表部門4名、口頭発表部門4名が選ばれ、各受賞者に賞状と副賞が授与されました。

朝の小雨模様から懇親会終了時には星空が見えるほど天候が回復し、盛況のうちに終了することができました。朝から、予想を上回る177名(一般88名、学生89名)もの方々にご参加頂き、研究討議、懇親を深めることができ、有意義な時間をもつことができました。

末筆ではありますが、発表者ならびに参加者の方々、支部大会の開催・運営にご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

